

船舶事故調査報告書

平成25年2月14日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年9月19日 02時20分ごろ
発生場所	長崎県西海市平島西岸 平島灯台から真方位359° 200m付近 (概位 北緯33° 00.1′ 東経129° 13.4′)
事故調査の経過	平成24年9月20日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	砂利運搬船 第七十八伸光丸、499トン 141258、伸光産業株式会社 70.75m×13.00m×7.25m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成22年7月31日
乗組員等に関する情報	船長 男性 52歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成21年3月30日 免状交付年月日 平成21年3月30日 免状有効期間満了日 平成26年3月29日
死傷者等	なし
損傷	球状船首部に破口及び凹損、船底外板に破口、凹損及び擦過傷
事故の経過	<p>本船は、船長ほか5人が乗り組み、砂約1,540tを積載し、船首約3.58m、船尾約5.10mの喫水で長崎県壱岐市芦辺港から沖縄県金武中城港に向けて航行中、船長が、平成24年9月18日23時40分ごろ、長崎県平戸市生月島西方沖において、一等航海士から船橋当直を引き継ぎ、単独の船橋当直に就いた。</p> <p>船長は、船橋前部中央にある操舵装置の後方で背もたれと肘掛けの付いた椅子に腰を掛けて船橋当直を行い、約199°（真方位、以下同じ。）の針路及び約9.5ノット（kn）の対地速力で自動操舵により航行した。</p> <p>船長は、平戸市平戸島西方沖を南南西進中、海上が穏やかで視界も良く、周囲に他船の灯火が見当たらず、6海里（M）レンジとしたレーダーでも他船の映像を認めなかったのが気が緩み、眠気を感じるようになった。</p>

	<p>船長は、翌19日00時30分ごろ平戸市上阿値賀島西方約2M沖で針路を約185°とし、次の変針予定場所まで約30分であることを確認したが、その後、再び椅子に腰を掛けて船橋当直を続けていたところ居眠りに陥った。</p> <p>本船は、変針予定場所を通過して平島西岸に向けて航行し、02時20分ごろ平島西岸の岩場に乗り揚げた。</p> <p>船長は、乗り揚げた衝撃で目が覚め、機関を停止して損傷及び浸水状況等の確認を行い、船舶所有会社及び海上保安部に連絡した。</p> <p>本船は、07時20分ごろ自力で離礁し、長崎県新上五島町有川湾に錨泊して応急修理を行ったのち、広島県尾道市の造船所に向かった。</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約4～5m/s、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の中央期、潮流 北西流約1kn以上、海上 平穩</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、本事故4日前の9月15日20時30分ごろ、大分県豊後高田市高田港沖に台風避難のために錨泊した。</p> <p>船長は、翌16日05時ごろ起床したのちは17日の04時ごろまで守錨当直等に当たり、一睡もしなかった。</p> <p>船長は、守錨当直を交替して約2時間の仮眠をとったのち、時々昇橋して周囲の状況を確認したり、書類の作成等を行ったりして過ごし、22時ごろに就寝した。</p> <p>船長は、翌18日05時ごろ起床し、08時20分に抜錨して芦辺港に向かい、12時40分ごろまで単独で船橋当直に就き、少し仮眠をとったのち、16時過ぎに昇橋して入港操船を行い、17時45分ごろ芦辺港に入港したのち、19時15分ごろまで積荷役の監視業務に当たった。</p> <p>船長は、19時25分ごろから19時45分ごろまで出港操船に当たり、一等航海士と船橋当直を交替し、少し仮眠をとったのちに23時40分ごろ一等航海士から船橋当直を引き継いだ。</p> <p>船長は、高田港で台風避難の際に16日05時ごろから17日04時ごろまで一睡もしていなかったため、船橋当直を引き継ぐ前にまだ疲れが残っていると感じていた。</p> <p>本船は、居眠り防止装置がなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、平戸島西方沖を自動操舵で南進中、単独で船橋当直中の船長が居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過して平島西岸に向けて航行し、同島西岸の岩場に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、海上が穏やかで視界も良く、周囲に他船が見当たらなかつ</p>

	<p>たので気が緩み、眠気を感じるようになった際、椅子に腰を掛けて船橋当直を続けたことから、居眠りに陥ったものと考えられる。</p> <p>本船は、約1kn以上の北西流により右方に圧流されたことから、平島西岸に向けて航行した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、平戸島西方沖を自動操舵で南進中、単独で船橋当直中の船長が居眠りに陥ったため、変針予定場所を通過して平島西岸に向けて航行し、同島西岸の岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>船舶所有会社は、本事故後の平成24年10月、本船に居眠り防止装置を設置した。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船橋当直中に眠気を感じた場合は、椅子から離れて身体を動かしたり、外気に当たったりして眠気を払うこと。